

# 近現代天皇制を 考える学術集会

## ——「建国記念の日」に問う

- **高木 博志** 京都大学人文科学研究所  
『「建国記念」の近現代史』
- **紙屋 牧子** 玉川大学  
『天皇の代替わりと映画』
- **樋浦 郷子** 国立歴史民俗博物館研究部  
『「帝国日本」の学校儀式』
- **佐々木 政文** 京都先端科学大学人文学部  
『昭和戦前期の君民間コミュニケーション  
— 地方行幸時の「御下問」行為に注目して —』
- **福家 崇洋** 京都大学人文科学研究所  
『「不敬」のプリズム  
— 大川周明と〈紀元二千六百年〉』
- **小山 哲** 京都大学大学院文学研究科  
『ヨーロッパ史における君主政と共和政  
— 王のいない共和政を展望するために』



梶原神宮史・別巻より

2023年

2月11日(土)

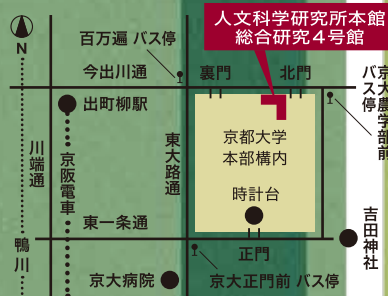
13:00~18:30

対面にて実施

京都大学 工学部

総合研究4号館

共通第1講義室



主催 京都大学人文科学研究所

お問い合わせ 京都大学人文研アカデミー  
z-academy@zinbun.kyoto-u.ac.jp

<https://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp>

# 近現代天皇制を考える学術集会

## ——「建国記念の日」に問う

橿原宮で初代神武天皇が即位した神話にもとづく「建国記念の日」が、1967年に公布されました。1872年にはじまる戦前の紀元節は、記紀神話に基づく天皇制を、学校行事をはじめ社会へと浸透させる役割を果たしました。「建国記念の日」公布から今日までの55年のあいだに、反対運動が継続する一方で祝日として定着してきました。つねに現代に向き合ってきた人文科学研究所では、この日に近現代天皇制を学術的に考え続けたいと思っています。



### 講師



#### 高木 博志 Hiroshi TAKAGI

京都大学人文科学研究所

専門 日本近代史

主著 『近代天皇制の文化史的研究—天皇就任儀礼・年中行事・文化財』（校倉書房、1997年）  
『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）



#### 紙屋 牧子 Makiko KAMIYA

玉川大学

専門 映画学

主著 「最初期の「皇室映画」に関する考察：隠される/晒される「身体」」  
（『映像学』100号、2018年）  
「皇太子渡欧映画」と尾上松之助：NFC所蔵フィルムにみる大正から昭和にかけての皇室をめぐるメディア戦略」  
（『東京国立近代美術館研究紀要』20号、2016年）



#### 樋浦 郷子 Satoko HIURA

国立歴史民俗博物館研究部

専門 教育史

主著 『神社・学校・植民地 逆機能する朝鮮支配』（京都大学学術出版会、2013年）



#### 佐々木 政文 Masaya SASAKI

京都先端科学大学人文学部

専門 日本近代社会思想史

主著 「昭和初期司法省の転向誘発政策と知的情報統制—司法権力による「読み」・「書き」の掌握過程—」  
（『歴史学研究』第965号、2017年12月）  
「1910年代奈良県における民衆教化政策と被差別部落—媒介としての寺院・神社に注目して—」  
（『史学雑誌』第124編第4号、2015年4月）



#### 福家 崇洋 Takahiro FUKU

京都大学人文科学研究所

専門 近現代日本社会運動史、思想史

主著 『戦間期日本の社会思想』（人文書院、2010年）  
『満川亀太郎』（ミネルヴァ書房、2016年）



#### 小山 哲 Satoshi KOYAMA

京都大学大学院文学研究科

専門 ポーランド史

主著 『ワルシャワ連盟協約（一五七三年）』東洋書店、2013年  
「ポーランドでひとはどのようにしてジャコバンとなるのか—ユゼフ・バヴリコフスキの軌跡」  
中澤達哉編『王のいる共和政—ジャコバン再考』岩波書店、2022年、80～93頁